



解説	
①組織の観念(理念・使命・提供価値など)を軸として、自社の方向性や距離感をビジョンで表現する	②現状とビジョンの差を明確にする必要があり(差がなければ何の努力も生まれない)、その差を埋める為に計画が必要となる
③中長期経営計画は“在り方”や“大きな方向性を示す戦略”を表現し、年間計画は短期の取組を表現する	④基本方針に則って現場の具体的戦術を決め、ある程度の役割も決めておく
⑤オペレーションを頻度に応じて決めておき、毎日しなければならない事から順番に習慣化していく	⑥個性を表現する前に【守破離】の【守】の部分をしっかりと出来る社員を育てる
⑦組織に現状とビジョンの差を埋めるための計画があるように、個人にもビジョンと現状の差を埋めるための行動が必要	⑧職業人としての習慣は成果に直結しやすいが表面的で短期的であり、社会人として必要な習慣は成果に直結しないが長期的に必須